

一般演題（ポスター）

2025年11月15日(土) 13:40～14:25 ポスター4

[P28] 一般演題（ポスター） 28 症例・転移・再発2

座長：真貝 竜史(近畿中央病院外科)

[P28-3] 薬物療法でCRを得たステージIV直腸癌術後多発肺転移の1例

深澤 貴子, 宇野 彰晋, 鈴木 克徳 (磐田市立総合病院)

直腸癌治療においては近年Total neoadjuvant therapyの概念の下で術前治療に注目が集まっているが、ステージIV直腸癌は治療に難渋することも少なくない。外科治療および殺細胞性抗癌剤治療でCRを得た症例の経験を報告する。

症例は46歳男性。腹痛、体重減少を主訴に受診。胸腹部造影CT検査で直腸S状部の、壁肥厚、狭窄と口側腸管の拡張および多発肝腫瘍を認めた。下部消化管内視鏡検査では直腸S状部に全周性の腫瘍性病変を認め経肛門的イレウス管を挿入した。直腸S状部癌cT3cN2bM1a(H2); StageIVaと診断し、X年原発巣切除としてハルトマン手術を施行した。術後FOLFOX療法3コース施行。治療効果はSDであったが新規病変の出現を認めず。X+6か月肝後区域切除、外側区域切除を施行した。X+10か月に経過観察CTで肺両葉に新規結節性病変を指摘され肺転移を疑った。経過観察CTで増大傾向を認め多発肺転移と確定診断しX+1年6か月よりFOLFOX療法を再開した。X+2年、FOLFOX8コース施行後にPRと判断。X+2年6か月、FOLFOX16コース後に肺結節消失と判断した。RAS変異型、BRAF未検索、MSSであるが分子標的治療薬は導入しなかった。以降薬物療法中止後10年間経過観察中であるが肺病変の再燃、その他の新規再発病変は認めていない。